

令和4年度

京都教育大学 教育学部
学校推薦型選抜 学生募集要項

本学の学校推薦型選抜の出願には「インターネットによる出願登録」と出願書類等の「郵送」が必要となります。

I. 本学の目的

京都教育大学は、学芸についての深い研究と指導とをなし、教養高き人としての知識、情操、態度を養い、併せて教育者として必要な能力を得させることを目的とする。

II. 教育学部の教育目的

教養高き人としての知識、情操、態度を育成し、学校教育、社会教育、生涯学習等の広い教育分野で地域社会に貢献できる人材を養成することを目指す。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

京都教育大学は教員養成大学として以下のような皆さんの入学を期待しています。

1. 倫理観と人権意識の大切さを認識し、将来は教師として地域や社会に貢献しようとする情熱と志を持つ人。
2. 子どもの成長に関わることに喜びを感じ、子どもを理解するために、教職に必要な知識や技能を身につける努力を惜しまない人。
3. 幅広い分野の知識・技能を持つとともに、志望する専攻領域と関連の深い教科に関して確かな学力や実技能力を有し、課題を深く思考できる人。
4. 教育の基礎となるさまざまな科学、文化、芸術、スポーツなどに関心を持って、広い視野で思考し、表現しようとする人。
5. 友人や周りの人たちと協働して学んでいく主体性と協調性を備えている人。

◆入学者選抜の基本方針

学校教員を志望するすぐれた学生を受け入れ、広く地域の教育に貢献するため、京都府内の高等学校に在籍する者を対象に小論文と面接で選考する学校推薦型選抜（地域指定）、地域の制限なしに主として小論文と面接で選考する学校推薦型選抜、大学入学共通テストと個別学力検査等を課す一般選抜・前期日程及び後期日程を行います。

アドミッション・ポリシーに示している「教師として地域や社会に貢献しようとする情熱と志」、「子どもを理解するために努力しようとする姿勢」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性と協調性」等を総合的に判断し、入学者を選抜します。

学校推薦型選抜における方針は、以下のとおりです。

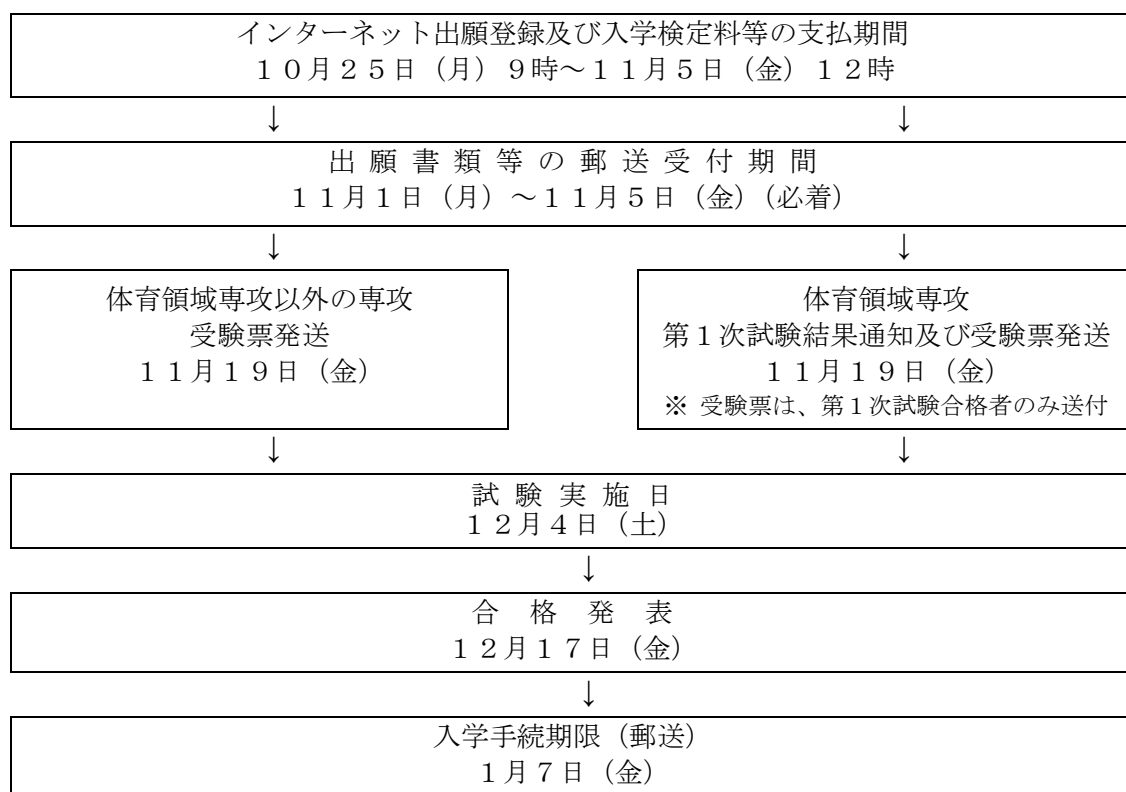
幅広い分野の「知識・技能」を有しているかを主に調査書で、課題を深く思考できる「思考力・判断力・表現力」を主に小論文で、友人や周りの人たちと協働して学んでいく「主体性と協調性」を調査書・面接等で確かめます。

また、「教師として地域や社会に貢献しようとする情熱と志」を確かめるため、志望する専攻ごとに定める学校種の教員志望であることを保証する学校長による推薦書及び教員志望動機書の提出を求めます。調査書、教員志望動機書に基づく面接では、「教師として地域や社会に貢献しようとする情熱と志」に加え、「子どもを理解するために、教職に必要な知識や技能を身につける努力」ができるかどうかを評価します。

目 次

教育学部学校推薦型選抜学生募集要項	ページ
1. 募集人員	1
2. 出願資格及び要件	2
3. 出願手続	4
4. 障がい等のある入学志願者の事前相談	8
5. 受験票等の発送	8
6. 選抜試験	8
7. 合否判定基準	1 2
8. 合格発表	1 3
9. 入学手続等	1 3
10. 入学前の学習課題	1 3
11. 学校推薦型選抜に係る留意事項	1 3
12. 入試情報の開示請求	1 4
13. その他の注意事項	1 4
教員志望動機書記入上の注意	1 5
令和4年度京都教育大学学校推薦型選抜出願資格照会書	1 9

*** 令和4年度 京都教育大学教育学部学校推薦型選抜日程の概要 ***



令和4年度 京都教育大学教育学部 学校推薦型選抜 学生募集要項

高等学校、中等教育学校、高等部を置く特別支援学校、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設（以下、「高等学校等」という。）を令和4年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和3年4月1日から令和4年3月31日までに高等学校等を卒業又は卒業見込みの者で、特に本学への入学を希望し、学業成績、人物が共に優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者を対象として、入学定員の一部について、次のとおり大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除して学校推薦型選抜を実施する。

1. 募集人員

教育学部

学校教育教員養成課程 入学定員300名のうち、学校推薦型選抜募集人員82名
募集人員の内訳は次のとおりである。

募集区分	入学定員	募集人員内訳			
		一般選抜		学校推薦型選抜	学校推薦型選抜 (地域指定) (※2)
		前期日程	後期日程		
教育学専攻	300	16	—	6	20
幼児教育専攻		7	1	6	
発達障害教育専攻		8	2	4	
国語領域専攻		14	—	5	
社会領域専攻		16	4	10	
英語領域専攻		16	4	5	
数学領域専攻		18	4	7	
理科領域専攻		22	5	13	
技術領域専攻		8	—	5 (※1)	
家庭領域専攻		11	—	5	
美術領域専攻 (美術分野)		8	2	3	
(書道分野)		3	—	—	
音楽領域専攻		7	2	3	
体育領域専攻		15	5	10	
合計	300	169	29	82	20

※1 技術領域専攻の募集人員については、A入試（3名）とB入試（2名）の区分がある。
詳細は、2. の(2)「出願資格及び要件」（3ページ）を参照のこと。

※2 学校推薦型選抜（地域指定）は、京都府内の高等学校等を対象とした学校推薦型選抜である。

2. 出願資格及び要件

次の（１）の出願資格及び要件を全て満たし、かつ（２）にある募集区分ごとの出願資格及び要件を全て満たしていること。

- （１）①高等学校等を令和４年３月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第９３条第３項の規定に基づき令和３年４月１日から令和４年３月３１日までに高等学校等を卒業又は卒業見込みの者
 ②出身学校長が責任をもって推薦できる者
 ③合格した場合、入学することを確約できる者

（２）各募集区分の出願資格及び要件は、次のとおりである。

募集区分	出願資格及び要件
教育学専攻	1. 教育学及び心理学に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、 小学校教員 になろうとする者 2. 調査書の「全体の学習成績の状況」が 4.0 以上の者 ＊各高等学校等からの推薦人数は、1校につき1名とする。
幼児教育専攻	1. 幼児教育に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、 幼稚園教員 になろうとする者 2. 調査書の「全体の学習成績の状況」が 4.0 以上の者 ＊各高等学校等からの推薦人数は、1校につき1名とする。
発達障害教育専攻	1. 障害児教育に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、 特別支援学校教員 もしくは 小学校教員 になろうとする者 2. 調査書の「全体の学習成績の状況」が 4.0 以上の者 ＊各高等学校等からの推薦人数は、1校につき1名とする。
国語領域専攻	1. 国語に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、 小学校教員 になろうとする者 2. 調査書の「全体の学習成績の状況」が 4.2 以上の者 ＊各高等学校等からの推薦人数は、1校につき1名とする。
社会領域専攻	1. 社会科に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、 小学校教員 になろうとする者 2. 調査書の「全体の学習成績の状況」が 4.0 以上の者 ＊各高等学校等からの推薦人数は、1校につき1名とする。
英語領域専攻	1. 英語に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、 小学校教員 もしくは 中学校教員 になろうとする者 2. 調査書の「全体の学習成績の状況」が 4.2 以上の者 ＊各高等学校等からの推薦人数は、1校につき1名とする。
数学領域専攻	1. 数学（算数）に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、 小学校教員 になろうとする者 2. 調査書の「全体の学習成績の状況」が 4.0 以上の者 ＊各高等学校等からの推薦人数は、1校につき1名とする。
理科領域専攻	1. 理科に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、 小学校教員 になろうとする者 2. 調査書の「全体の学習成績の状況」が 4.0 以上の者 ＊各高等学校等からの推薦人数は、1校につき1名とする。

募集区分	出願資格及び要件
技術領域専攻	<p>1. 次のいずれかに該当する者</p> <p>A入試：工業・農業などの産業分野の教育及び研究に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、中学校教員等になろうとする者</p> <p>B入試：もの作りや情報の活用などに強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、小学校教員になろうとする者</p> <p>2. 出願できる高等学校等</p> <p>A入試（3名）</p> <p>対象となるのは以下に該当する者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業高等学校に在籍する者 ・農業高等学校に在籍する者 ・高等学校において、専門教育に関する教科「工業」及び「農業」に含まれる科目の単位を25単位以上履修した者 <p>B入試（2名）</p> <p>対象となるのは上記A入試の対象外の高等学校等(普通科を含む。)に在籍する者</p> <p>3. 調査書の「全体の学習成績の状況」がA入試は4.2以上、B入試は4.0以上の者</p> <p>*各高等学校等からの推薦人数は、1校につき1名とする。</p>
家庭領域専攻	<p>1. 家庭科に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、小学校教員になろうとする者</p> <p>2. 調査書の「全体の学習成績の状況」が4.0以上の者</p> <p>*各高等学校等からの推薦人数は、1校につき1名とする。</p>
美術領域専攻	<p>1. 子どもの造形教育ならびに美術・工芸に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、図画工作科教育を牽引する小学校教員になろうとする者</p> <p>2. 芸術的表現に関して、美術・工芸の授業やクラブ活動などで意欲的な活動が認められる者</p> <p>3. 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.8以上の者</p> <p>*各高等学校等からの推薦人数は、1校につき2名以内とする。</p>
音楽領域専攻	<p>1. 音楽に強い関心を持ち、同分野の専門的知識を活かして、将来、小学校教員になろうとする者</p> <p>2. 調査書の「全体の学習成績の状況」が4.0以上の者</p> <p>*各高等学校等からの推薦人数は、1校につき1名とする。</p>
体育領域専攻	<p>1. 体育・スポーツ分野(保健を含む。)に強い関心を持ち、将来、学校教員になろうとする者</p> <p>2. 学校体育で取り扱われている内容、及び本学の教育課程に対応する以下の運動種目において、優れた運動能力を有する者(全国規模の大会^(注1)への出場経験を有する者、又はブロック大会^(注2)にて、ベスト8、もしくは8位以上の競技成績を有する者)</p> <p>出願可能運動種目：</p> <p>体操競技、陸上競技、競泳、球技【ゴール型(バスケットボール、ハンドボール、サッカー)：ネット型(バレーボール、テニス[ソフトテニスを含む。])：ベースボール型(ソフトボール、野球)】、武道(柔道、剣道)、野外活動(スキー)</p> <p>3. 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.8以上の者</p> <p>(注1) 全国規模の大会とは、インターハイ、国体及びそれらと同等以上の大会をいう。</p> <p>(注2) ブロック大会とは、都道府県大会の上位チームもしくは上位の成績を得た個人が、近畿大会など、複数の都道府県からの代表チーム又は個人として競う大会をいう。</p> <p>*各高等学校等からの推薦人数は、1校につき2名以内とする。</p> <p>*2. に関する問い合わせは14ページを参照すること。</p>

3. 出願手続

(1) 出願期間及び検定料等納入期間

事 項	期 間
インターネット出願登録 及び検定料等の支払期間	令和3年10月25日(月)9時～令和3年11月5日(金)12時
出願書類等の郵送受付期間	令和3年11月1日(月)～令和3年11月5日(金)(必着) ただし、出願期間後に到着した場合でも、11月4日(木)以前の 発信局消印のある書留速達に限り有効とする。

(2) 出願方法

出願完了には下記①、②、③の順番で全ての手続が必要である。なお、各手続には受付期間が定められており、いずれか一つでも出願受付期間中に手続が完了できない場合は出願を受理しないので、十分注意すること。

- ①インターネットによる出願登録
- ②検定料等(支払手数料等含む)の支払い
- ③出願に必要な書類等の郵送(書留速達)での提出

必要書類等の受付は、郵送(書留速達)のみとし、郵送受付期間を過ぎたものは受理しないので郵便事情を十分考慮し、余裕をもって早めに送付すること。

インターネット環境がない等の理由で、「①インターネットによる出願登録」を行えない場合は、京都教育大学入試課まで相談すること。相談時期によっては、出願が間に合わない場合があるので、早めに連絡をすること。

京都教育大学入試課 TEL 075-644-8161

(土・日曜日、祝日を除く、9時から12時30分、13時30分から17時)

(3) 出願登録前に準備するもの

パソコン・スマートフォン等	インターネットに接続されたパソコン・スマートフォン等から出願登録を行うこと。 自宅にパソコン等がない場合は、学校等のパソコン等から出願すること。
印刷環境 (カラー推奨)	郵送が必要な書類をA4用紙で印刷すること。自宅にプリンタ等がない場合は、学校等のプリンタ等から出力すること。
メールアドレス	出願登録時に必要。メール受信設定でドメインの設定を行っている場合は、「@sak-sak.net」を受信可能なドメインとして設定すること。
写 真	2枚(同一)必要。無帽、上半身、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影したもの。 写真の裏面に氏名及び志望専攻名を記入すること。
出願に必要な書類	7ページ参照の上、提出期間内に間に合うようあらかじめ用意すること。
封 筒	必要書類送付のため、市販の角2封筒(24cm×33.2cm)を用意すること。

(4) インターネット出願の流れ

- STEP 1 本学ホームページから「インターネット出願サイト」にアクセス。
本学ホームページトップ → 入試情報 → 学部入試 → インターネット出願
「インターネット出願」バナーをクリック。
- STEP 2 インターネット出願登録
- ・インターネット出願サイトの「利用案内」、「出願手順」、「Q&A」等を必ず確認すること。
 - ・画面に従って、出願登録を行うこと。
 - ・確認画面で登録内容に間違いがないか、確認すること。
- ※出願登録完了後の登録内容の変更はできないので、登録した内容を十分に確認すること。
- STEP 3 検定料等の支払い
- 次のいずれかの方法で支払手続を行うこと。出願確認票（本人控）に記載された支払期限までに支払うこと。検定料等の支払いにかかる手数料は志願者負担。
- a. クレジットカード、ネットバンキング
画面に従って、支払手続を行うこと。
 - b. 指定のコンビニエンスストア及び Pay-easy（ペイジー）取扱い金融機関 ATM
- ①支払方法を選択し、表示される受付番号等（※）をメモするか、画面を印刷すること。
※支払いのための受付番号等は、出願受付番号とは別の番号である。
- ②メモした受付番号等を使用し、コンビニエンスストア、金融機関で支払手続を行うこと。
- STEP 4 出願確認票等の印刷
- 7ページの書類①～③を出願サイトからA4用紙で印刷(カラー推奨)すること。
- STEP 5 必要書類等の郵送
- 7ページの「出願書類等」に基づき、出願書類を「書留速達」により郵送すること。
※郵送用封筒については、市販の角2封筒（24cm×33.2cm）に、出願サイトから印刷した「宛名ラベル」を貼り付けて使用すること。

【注 意】

インターネット出願において、出願登録及び検定料の支払いを行っただけでは、出願手続完了にはならない。

4ページの出願期間中に必着するよう「書留速達」により出願書類を郵送する必要がある。「出願書類等の郵送受付期間」を過ぎたものは受理しないので、郵送期間を十分考慮して、手続を行い、出願書類等を送付すること。

(5) 検定料等の支払い方法

①検定料等 17,384円(検定料17,000円と受験関係書類送料384円)

検定料等支払い時に、別途検定料等の支払いにかかる手数料(459円)がかかる。

②支払方法

クレジットカード、ネットバンキング、コンビニエンスストア、Pay-easy(ペイジー)の利用が可能。それぞれの詳しい支払方法や手続・注意事項等は「インターネット出願サイト」で出願情報登録後の「お支払方法選択」で確認すること。

支払方法	取扱機関等	備考
クレジットカード	VISA、MasterCard	・検定料等の支払いをインターネット出願と同時に完了することができる。
ネットバンキング	PayPay 銀行、楽天銀行、auじぶん銀行等	
コンビニエンスストア	セブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、デイリーヤマザキ、セイコーマート	・各コンビニにより支払方法が異なるので、詳細はインターネット出願サイト内の「コンビニエンスストアでお支払い」を確認すること。 ・支払い後、決済データの反映に数時間かかる。
Pay-easy(ペイジー)	ATMでPay-easy(ペイジー)が利用可能な金融機関	・取扱金融機関のPay-easyロゴが付いているATMで支払うことができる。

※納付された検定料等は、返還しない。

ただし、次に該当する場合は、該当者の申し出により当該検定料等を返還する(検定料支払い時の手数料は、返還しない)。

- ・出願書類を提出しなかった場合
- ・出願書類が不備等により受理されなかった場合

また、体育領域専攻の第1次試験不合格者に対しては、申し出により13,000円を返還する。

(6) 出願書類等

A ①～③はインターネット出願登録完了画面から印刷(片面)し、Bと同一の封筒に入れて提出すること。

出 願 書 類 等	摘 要
① 出願確認票	インターネット出願サイトの出願登録完了画面からA4用紙に印刷すること。
② 受験票・写真票	写真は2枚(同一)必要。インターネット出願登録完了画面からA4用紙に印刷し、所定の位置に貼り付けること。 無帽、上半身、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影したもの。 写真の裏面に氏名及び志望専攻名を記入すること。
③ 宛名ラベル	出願登録完了画面からA4用紙に印刷(カラー推奨)の上、必要書類郵送用封筒(市販の角2封筒)の表面に貼り付けること。

B ④～⑨は志願者が出願前に準備してAと同一の封筒に入れて提出すること。

出 願 書 類 等	摘 要
④ 推 薦 書	本学ホームページより、所定の様式をダウンロードし、A4用紙に印刷し、使用すること。 「推薦書記入上の注意」をよく読んで、出身学校長が作成し、厳封したものを提出すること。
⑤ 調 査 書	出身学校長が作成し、厳封したものを提出すること。
⑥ 教員志望動機書	本学ホームページより、所定の様式をダウンロードし、A4用紙に印刷し、使用すること。 15～18ページに記載の教員志望動機書記入上の注意をよく読んで、本人が <u>自筆で</u> 、それぞれの項目に対して、対応する番号を付して記入すること。
⑦ 体育・スポーツ 業績調書	本学ホームページより、所定の様式をダウンロードし、A4用紙に印刷し、使用すること。 出身学校長が作成したものを提出すること。 (体育領域専攻の志願者のみ提出)
⑧ 美術・工芸作品 証明書	本学ホームページより、所定の様式をダウンロードし、A4用紙に印刷し、使用すること。 作品の写真(キャビネ版(12.0cm×16.5cm)とし、2点以内、各作品の制作年月日と寸法を明記し出身学校長及び指導教諭(担任可)の証明書を添付すること。)作品は、試験当日に受験者本人が持参できるものに限る。 (美術領域専攻の志願者のみ提出)
⑨ ピアノ伴奏者用 楽譜	裏面に、高等学校等名・氏名を記入すること。 (音楽領域専攻の「声楽」選択者のみ提出)

(注) 出願に際しての注意事項

- ⑤調査書及び⑨ピアノ伴奏者用楽譜以外は、全て本学所定用紙により作成すること。
- 出願書類等に不備がある場合には、受理しないことがあるので十分注意すること。
- 提出後は、出願書類等の変更及び記入内容の変更は認めない。また、検定料及び出願書類等は返還しない。

4. 障がい等のある入学志願者の事前相談

障がい等のある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、出願に先立ち必ず以下のとおり相談すること。

(1) 相談の時期

令和3年9月30日（木）までに、本学入試課入試グループへ申し出ること。

なお、期限以降であっても、その状況によっては考慮できる場合があるので申し出ること。

(2) 相談の方法

学長あてに次の事項を記載した書類(様式任意)に医師の診断書を添付し、提出すること。

なお、必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁することができる出身学校関係者等との面談等を行う。

- ①志望する募集区分名
- ②障がいの種類・程度
- ③受験上の配慮を希望する事項
- ④修学上の配慮を希望する事項
- ⑤日常生活の状況

5. 受験票等の発送

受験票、受験に際しての注意事項及び体育領域専攻第1次試験結果通知は、**令和3年11月19日（金）**に発送する。

ただし、体育領域専攻志願者の受験票は、第1次試験合格者のみ送付する。

6. 選抜試験

(1) 選抜試験実施日 **令和3年12月4日（土）**

(体育領域専攻の第2次試験も、同日に実施する。)

(2) 選抜試験実施場所 京都教育大学 京都市伏見区深草藤森町1番地

(3) 募集区分ごとの選抜方法等

教育学専攻、幼児教育専攻、発達障害教育専攻、国語領域専攻、社会領域専攻、英語領域専攻、数学領域専攻、理科領域専攻、技術領域専攻（A入試、B入試）、家庭領域専攻

推薦書、調査書、教員志望動機書を参考資料として、小論文及び面接による選抜を行う。

選抜の実施科目等及び時間

科目等	時間
小論文	9:30～11:00
面接	12:30～17:00

美術領域専攻

推薦書、調査書、教員志望動機書を参考資料として、小論文、面接及び美術・工芸作品による選抜を行う。

当日は、出願時に提出した写真の作品を持参すること。

選抜の実施科目等及び時間

科目等	時間
小論文	9:30～11:00
面接	12:30～17:00

音楽領域専攻

推薦書、調査書、教員志望動機書を参考資料として、実技検査等及び面接による選抜を行う。

選抜の実施科目等及び時間

科目等	時間
実技検査等	9:30～11:30
面接	12:30～17:00

体育領域専攻

推薦書、調査書、教員志望動機書を参考資料として、体育・スポーツ業績調書、小論文、面接による選抜を行う。

第1次試験

体育・スポーツ業績調書により選抜する。

第1次試験の選抜結果は、11月19日付けの文書をもって通知する。

第2次試験 令和3年12月4日（土）

第1次試験の合格者に対し小論文及び面接を課し、第1次試験の成績と総合して選抜を行う。

選抜の実施科目等及び時間

科目等	時間
小論文	9:30～11:00
面接	12:30～17:00

※各募集区分の面接、実技検査等の終了時刻については、受験者数により変更する場合がある。

(4) 選抜試験の内容等

小論文

募集区分	検査内容及びその評価基準
教育学専攻	子どもの教育や発達に関する文献や資料を提示し、その内容について論述させ、理解力、表現力、関心・意欲等を総合的に評価する。
幼児教育専攻	幼児の教育や発達に関する文献や資料を提示し、その内容について論述させ、理解力、表現力、関心・意欲等を総合的に評価する。
発達障害教育専攻	障害児の教育や発達に関する文献や資料を提示し、その内容について論述させ、理解力、表現力、関心・意欲等を総合的に評価する。
国語領域専攻	言葉、文化、教育などに関する文献や資料を提示し、その内容について論述させ、基礎的教養、理解力、思考力、表現力等を総合的に評価する。一部に読解力、漢字などの基礎的学力を問う設問を含む。
社会領域専攻	人文科学、社会科学に関する文献や資料を提示し、その内容について論述させ、基礎的教養、思考力、表現力等を総合的に評価する。
英語領域専攻	言語、文化、現代社会などに関する英語で書かれた文献を提示し、その内容について日本語で論述させ、基礎的教養、思考力、表現力等を総合的に評価する。あわせて、教育に対する意欲や関心についても見る。
数学領域専攻	数学（算数）、教育などに関連する資料や文章を提示し、それに関連した論述をさせ、論証力、説明能力、思考力、表現力、基礎的教養等を総合的に評価する。なお、読解力、説明能力、とくに算数・数学に関する事柄に対する説明能力などの基礎的学力を問う設問を含む場合がある。
理科領域専攻	自然科学や、理科の教育に関する事柄について、提示された文章や資料を手掛かりに論述させる。教育に対する関心・意欲、基礎的教養、思考力、表現力等を見るとともに、理科の専門性を有する小学校教員としての資質を、総合的に評価する。
技術領域専攻 (A入試、B入試)	現代社会を支えている技術に関する課題について論述させ、基礎的教養、理解力、論理的思考力、創造的思考力、表現力等を総合的に評価する。
家庭領域専攻	生活のあり方やそれに関わる教育的課題に関する内容を論述させ、基礎的教養、思考力、表現力等を総合的に評価する。
美術領域専攻	美術教育に関する課題について、提示された文献や資料を手掛かりに論述させる。教育実践に関する理解や関心及び教職への意欲を見るとともに、子どもの感性や創造力を育成し、図画工作の専門性を有する小学校教員としての資質を、総合的に評価する。
体育領域専攻	保健体育に関する文献・資料または課題を提示し、その内容について論述させ、基礎的知識、思考力、表現力等を総合的に評価する。なお、一部に保健体育に関する基礎的学力を問う内容を含む。

面接

募集区分	検査内容及びその評価基準
教育学専攻	志望動機、教育学及び心理学に対する関心、小学校・中学校・高等学校等で学んだ内容等について問い、小学校教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力を総合的に評価する。面接形態は、原則として個人面接 ^(注) とする。
幼児教育専攻	志望動機、幼児教育に対する関心、これまでの学校教育等で学んだ内容等について問い、幼稚園教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力を総合的に評価する。面接形態は、原則として集団面接 ^(注) （集団討論を含む。）とする。
発達障害教育専攻	志望動機、これまでの学校生活・学習、障害児教育に対する関心等について問い、教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力を総合的に評価する。面接形態は、原則として集団面接 ^(注) とする。
国語領域専攻	志望動機、国語に対する関心、小学校・中学校・高等学校等で学んだ内容等について問い、小学校教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力を総合的に評価する。面接形態は、原則として集団面接 ^(注) とする。
社会領域専攻	志望動機、社会科に対する関心、小学校・中学校・高等学校等で学んだ内容等について問い、小学校教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力を総合的に評価する。面接形態は、集団面接とする。
英語領域専攻	志望動機、英語に対する関心、小学校・中学校・高等学校等で学んだ内容等について問い、教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力を総合的に評価する。面接形態は、原則として集団面接 ^(注) とする。
数学領域専攻	志望動機、数学（算数）に対する関心、小学校・中学校・高等学校等で学んだ内容等について問い、小学校教員になろうとする意欲、資質、学力、思考力、説明能力、表現力を総合的に評価する。面接形態は、原則として個人面接 ^(注) とする。
理科領域専攻	志望動機、理科に関する内容とそれに対する興味・関心、探究活動の経験等について問い、小学校教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力を総合的に評価する。面接形態は、原則として個人面接 ^(注) とする。
技術領域専攻	(A入試) 志望動機、工業・農業などの産業分野に対する関心、これまでに学んだ内容等について問い、教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力等を総合的に評価する。面接形態は、原則として個人面接 ^(注) とする。 (B入試) 志望動機、もの作りや情報の活用などに対する関心、これまでに学んだ内容等について問い、小学校教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力等を総合的に評価する。面接形態は、原則として個人面接 ^(注) とする。
家庭領域専攻	志望動機、家庭科に対する関心、小学校・中学校・高等学校等で学んだ内容等について問い、小学校教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力等を総合的に評価する。面接形態は、原則として個人面接 ^(注) とする。
美術領域専攻	志望動機、美術・工芸に対する関心、小学校・中学校・高等学校等で学んだ内容等について問う。小学校教員になろうとする高い意識、資質、思考力、表現力等を総合的に評価する。面接形態は、原則として集団面接 ^(注) とする。
音楽領域専攻	志望動機、音楽に対する関心、小学校・中学校・高等学校等で学んだ内容等について問い、小学校教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力等を総合的に評価する。面接形態は、原則として個人面接 ^(注) とする。
体育領域専攻	志望動機、保健体育に対する関心、学校教育や体育・スポーツ活動を通じて学んだ内容等について問い、教員になろうとする意欲、資質、思考力、表現力等を総合的に評価する。面接形態は、個人面接とする。 なお、面接には第1次試験合格者に対して事前に提示する課題についてのプレゼンテーションを含む。（電子機器の使用は不可）

(注) 志願者数により、個人面接を集団面接に、集団面接を個人面接に変更することがある。

実 技 検 査 等

募集区分	検 査 内 容 及 び そ の 評 価 基 準
音楽領域専攻	<p>次の1～3のうちから1つを出願時に選択登録し、受験すること。</p> <p>1. 器楽 (1) 出願時に実技選択種目欄の「器楽」を選択登録し、楽器名を登録すること。 (2) 演奏は自由曲1曲とし、暗譜の上、繰り返しは省略すること。 (3) ピアノ以外の楽器は、各自持参を原則とする。</p> <p>2. 声楽 (1) 出願時に実技選択種目欄の「声楽」を選択登録し、選択する曲名と希望する調を登録すること。また、出願時にピアノ伴奏者用楽譜を提出すること。 (2) 伴奏者は、本学で準備する。</p> <p>3. 小論文 (1) 出願時に実技選択種目欄の「小論文」を選択登録すること。 (2) 音楽に関する与えられたテーマについて論述する。 (3) 試験時間は、90分とする。</p> <p>器楽・声楽の実技については、基本的な演奏技術、音楽性、表現力を評価する。 小論文については、音楽及び音楽教育に関する基礎的知識、論理的思考力、文章による表現力を総合的に評価する。</p>

(5) 配点

募集区分	書類等選考 (美術・工芸作品を含む)	小論文	実技検査等	面接	合計
教育学専攻、幼児教育専攻、 発達障害教育専攻、国語領域専攻、 社会領域専攻、英語領域専攻、 数学領域専攻、理科領域専攻、 技術領域専攻、家庭領域専攻	——	100	——	100	200
美術領域専攻	100	100	——	100	300
音楽領域専攻	——	——	100	100	200
体育領域専攻	100	100	——	100	300

7. 合否判定基準

- ・選抜の実施科目等のすべてを受験した者以外は欠席者とする。
- ・合否判定は、募集区分ごとにおける総得点の順位によることを原則とする。
- ・総得点の同点者はすべて同順位とし、合格最終順位に同点者が複数いる場合は、その全員を合格者とする。

8. 合格発表

令和3年12月17日(金) 10時

合格者の受験番号を本学のホームページに掲載する。

本学ホームページトップ → 入試情報 → 合格発表

また、選考の結果について、本人及び出身学校長あてに文書をもって通知する。
電話等による問い合わせには一切応じない。

9. 入学手続等

入学手続は、下記により行うこと。

なお、詳細については、合格者に別途通知する。

(1) 入学手続の日時・方法

令和4年1月7日(金)までに必着とし、郵送により行うこと。

(2) 入学料・授業料等

ア. 入学料 282,000円

イ. 授業料(年額) 535,800円

(注) ①入学手続後、納付した入学料は、いかなる理由があっても返還しない。

②上記の入学料及び授業料は、令和3年度入学者の金額であり、令和4年度入学者については、変更する場合がある。

③在学中に授業料の改定を行った場合は、改定時から新授業料が適用される。

ウ. その他

学生教育研究災害傷害保険料等 約60,000円

(3) 入学の辞退

特別の事情により入学を辞退する場合は、出身学校長から入学辞退願(様式任意)を令和4年1月31日(月)までに学長あてに提出し、許可を得た場合に限り入学辞退を認める。

10. 入学前の学習課題

合格者には、入学までに取り組むべき課題として、レポート等の課題を課す。詳細は、合格通知書とともに通知する。

11. 学校推薦型選抜に係る留意事項

(1) 国公立大学の学校推薦型選抜(大学入学共通テストを課す場合、課さない場合を含めて)へ出願できるのは、1つの大学・学部なので注意すること。

(2) 出身学校長から学校推薦型選抜(大学入学共通テストを課す場合、課さない場合を含めて)に推薦された志願者で、一般選抜の受験を希望する者は、前期から1つ後期から1つの合計2つまでの大学・学部を選んで出願することができる。

なお、本学の一般選抜を受験する場合は、大学入学共通テストを受験のうえ、令和3年10月下旬に公表する本学の学生募集要項により出願手続を行うこと。

(3) 選抜試験の結果によっては、合格者が募集人員に満たない場合がある。

(4) 合格者は本学で定めた入学手続期間中に所定の手続きを行うものとする。

この場合、本要項の「9. 入学手続等」の「(3) 入学の辞退」により入学の辞退を許可された場合を除き、他の国公立大学・学部の入学許可は得られない。

(5) 合格者が本学で定めた入学手続期間中に所定の手続きを完了しない場合は、入学を辞退した者として取扱うが、合格者は所定の期間内に入学又は入学辞退の手続きを必ず行うこと。

(6) 所定の期間内に入学手続を完了した者であっても、令和4年3月31日までに高等学校等を卒業できない場合は、入学は許可されない。

(7) 新型コロナウイルス感染症の今後の感染状況によっては、本募集要項に記載の選抜方法とは異なる方法で選抜を実施することがある。

12. 入試情報の開示請求

- (1) 開示内容
 - ・個人成績
 - 書類等選考（美術・工芸作品を含む。）、小論文、実技検査等、面接の得点
- (2) 開示手続
 - ①開示の対象者
受験者本人に限る（代理人は不可）。
 - ②開示期間等
令和4年5月2日（月）～令和4年5月31日（火）
（土・日曜日、祝日を除く、9時から12時30分、13時30分から17時）
 - ③申請方法
入試課入試グループ窓口において、所定の「成績開示申請書」に必要事項を記入し、受験票を添えて提出すること。
 - ④開示方法
入試課入試グループ窓口で「成績開示表」を交付する。

13. その他の注意事項

- (1) 受験のための宿泊施設の斡旋は行わない。
- (2) 過去1年間の入試問題は入試課入試グループで閲覧することができる。
- (3) 入学者選抜試験に関する問い合わせは、原則として出願を希望する本人が入試課入試グループに行うこと。郵便により行う場合はあて先を明記し、84円分の切手を貼った返信用封筒を必ず同封すること。
- (4) 体育領域専攻の「出願資格及び要件」（3ページ）の2.に関する問い合わせは、原則として出願を希望する本人が巻末の「出願資格照会書」を用いて行うこと。
 - *問い合わせは任意である。**
 - 問い合わせをする場合は、令和3年10月1日（金）までに必着とし、入試課入試グループに郵送（84円分の切手を貼った返信用封筒を同封）により行うこと。
 - 結果についての通知を、令和3年10月8日（金）までに文書で発送する。

[問い合わせ先]

〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1番地
京都教育大学 入試課 入試グループ
TEL 075-644-8161
（土・日曜日、祝日を除く、9時から12時30分、13時30分から17時）
FAX 075-642-5466

入学者選抜試験に関する個人情報の取扱いについて

本学が実施する入学者選抜試験において取得した個人情報については、次のとおり取扱います。

1. 個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人京都教育大学個人情報保護規程」に基づき取扱います。
2. 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、①出願処理、②入学者選抜試験の実施、③合格発表、④入学手続業務、⑤入学者選抜方法改善のための調査・研究及びこれらに付随する業務の実施のために利用します。
3. 国公立大学の一般選抜における合格決定業務を円滑に行うため、氏名、高等学校等コード、大学入学共通テストの受験番号、学校推薦型選抜の合格及び入学手続等に関する情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学へ提供します。
4. 出願書類等に記載された個人情報及び入学者選抜試験の成績は、入学者のみ入学後の①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（奨学金、授業料免除、健康管理等）、③授業料等に関する業務を行うために利用します。
5. 入学後の学生生活支援のため京都教育大学生協同組合から申し出があった場合は、利用目的を限定した上で合格者の出願書類等に記載された個人情報のうち氏名及び住所を提供する場合があります。

教員志望動機書記入上の注意

- I. 本学ホームページより、様式をダウンロードし、A4サイズに片面印刷(2枚)して、使用すること。
- II. 黒のボールペンを使用して、できるだけ具体的に本人が記入すること。誤って記入した場合は、誤記部分を二重線で消して訂正するとともに押印すること。
- III. 面接の際には、ここに書かれたことについて質問することがある。
- IV. 記入内容は、募集区分ごとの記入事項に従い、それぞれの項目に対して、対応する番号を付して記入すること。
- V. 記入後、左上をホッチキス止めし、提出すること。

[募集区分ごとの記入事項]

教育学専攻

1. 小学校教員になろうとする理由。
2. どのような小学校教員になりたいと思っているか。
3. 教育学専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、教育学専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. 自分について知ってもらいたいこと。
例： 学業関係、課外活動関係(弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。)、検定試験等の取得資格(証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。)、特技等、その他自己をアピールできること。

幼児教育専攻

1. 幼稚園教員になろうとする理由。
2. どのような幼稚園教員になりたいと思っているか。
3. 幼児教育専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、幼児教育専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. 自分について知ってもらいたいこと。
例： 学業関係、課外活動関係(弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。)、検定試験等の取得資格(証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。)、特技等、その他自己をアピールできること。

発達障害教育専攻

1. 特別支援学校教員もしくは小学校教員になろうとする理由。
2. どのような特別支援学校教員もしくは小学校教員になりたいと思っているか。
3. 発達障害教育専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、発達障害教育専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. 自分について知ってもらいたいこと。
例： 学業関係、課外活動関係(弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。)、検定試験等の取得資格(証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。)、特技等、その他自己をアピールできること。

国語領域専攻

1. 小学校教員になろうとする理由。
2. どのような小学校教員になりたいと思っているか。
3. 国語領域専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、国語領域専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. 自分について知ってもらいたいこと。

例： 学業関係、課外活動関係(弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。)、検定試験等の取得資格(証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。)、特技等、その他自己をアピールできること。

社会領域専攻

1. 小学校教員になろうとする理由。
2. どのような小学校教員になりたいと思っているか。
3. 社会領域専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、社会領域専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. 自分について知ってもらいたいこと。

例： 学業関係、課外活動関係(弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。)、検定試験等の取得資格(証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。)、特技等、その他自己をアピールできること。

英語領域専攻

1. 小学校教員もしくは中学校教員になろうとする理由。
2. どのような小学校教員もしくは中学校教員になりたいと思っているか。
3. 英語領域専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、英語領域専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. これまで英語の勉強にどのように取り組んできたか。
6. 自分について知ってもらいたいこと。

例： 学業関係、課外活動関係(弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。)、検定試験等の取得資格(証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。)、特技等、その他自己をアピールできること。

数学領域専攻

1. 小学校教員になろうとする理由。
2. どのような小学校教員になりたいと思っているか。
3. 数学領域専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、数学領域専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. これまで数学(算数)の勉強にどのように取り組んできたか。何か特徴のある勉強の仕方をした場合は、その内容についても記入すること。また、これらの内容に関連する特別な活動の記録[研究発表、受賞など]があれば、それについても記入すること。
6. 自分について知ってもらいたいこと。

例： 学業関係、課外活動関係(弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。)、検定試験等の取得資格(証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。)、特技等、その他自己をアピールできること。

理科領域専攻

1. 小学校教員になろうとする理由。
2. どのような小学校教員になりたいと思っているか。
3. 理科領域専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、理科領域専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. これまで理科の勉強にどのように取り組んできたか。何か特徴のある勉強の仕方をした場合は、その内容についても記入すること。また、これらの内容に関連する特別な活動の記録〔研究発表、受賞など〕があれば、それについても記入すること。
6. 自分について知ってもらいたいこと。
例： 学業関係、課外活動関係(弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。)、検定試験等の取得資格(証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。)、特技等、その他自己をアピールできること。

技術領域専攻 (A入試)

1. 教員になろうとする理由。
2. どのような教員になりたいと思っているか。
3. 技術領域専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、技術領域専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. 自分について知ってもらいたいこと。
例： 学業関係、課外活動関係(工業・農業など専門分野におけるコンテスト・コンクールや、弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。)、検定試験等の取得資格(証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。)、特技等、その他自己をアピールできること。

技術領域専攻 (B入試)

1. 小学校教員になろうとする理由。
2. どのような小学校教員になりたいと思っているか。
3. 技術領域専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、技術領域専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. 自分について知ってもらいたいこと。
例： 学業関係、課外活動関係(弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。)、検定試験等の取得資格(証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。)、特技等、その他自己をアピールできること。

家庭領域専攻

1. 小学校教員になろうとする理由。
2. どのような小学校教員になりたいと思っているか。
3. 家庭領域専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、家庭領域専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. 自分について知ってもらいたいこと。
例： 学業関係、課外活動関係(弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。)、検定試験等の取得資格(証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。)、特技等、その他自己をアピールできること。

美術領域専攻

1. 小学校教員になろうとする理由。
2. どのような小学校教員になりたいと思っているか。
3. 美術領域専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、美術領域専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. 自分について知ってもらいたいこと。

例： 学業関係、小学校での図画工作科の学習、課外活動関係（展覧会、文化活動、ワークショップ、ボランティア活動等への参加）、検定試験等の取得資格（証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。）、児童・幼児との交流体験、特技等、その他自己をアピールできること。

音楽領域専攻

1. 小学校教員になろうとする理由。
2. どのような小学校教員になりたいと思っているか。
3. 音楽領域専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、音楽領域専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. 自分について知ってもらいたいこと。

例： 学業関係、課外活動関係（演奏会・コンクールへの出演・出場、ボランティア活動等を含む。）、検定試験等の取得資格（証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。）、特技等、その他自己をアピールできること。

6. 実技検査等の受験種目。
 - a. 選択種目（器楽・声楽・小論文）の何を選択するかを記入すること。
 - b. 器楽の場合、楽器名を記入すること。

体育領域専攻

1. 教員になろうとする理由。
2. どのような教員になりたいと思っているか。
3. 体育領域専攻を志望する理由。
4. 「上記2」を実現するために、体育領域専攻でどのような勉強をしたいか。また、それ以外に大学でどのようなことを学びたいか。
5. 自分について知ってもらいたいこと。（体育・スポーツ業績調書の内容を含めないこと。）

例： 学業関係、課外活動関係（弁論大会への出場、ボランティア活動等を含む。）、検定試験等の取得資格（証明できる書類がある場合はそのコピーを添付すること。）、特技等、その他自己をアピールできること。

令和4年度京都教育大学 学校推薦型選抜
出願資格照会書
[体育領域専攻]

出願希望者	氏 名		性 別	男 ・ 女
	住 所	〒		
	電話番号	T E L 携帯電話		
高 等 学 校 等 名				
所 在 地		〒		

種 目 名	
出場大会、発表会、 活動等名（出場した 全国規模の大会や ブロック大会の名称）	
大会の主催者名	
大会への出場資格 （予選会での成績等）	
開 催 期 日	
参加者、チーム数	
成 績	
ポジション、役割	

体育領域専攻の出願資格及び要件（3ページ掲載）の2に関する問い合わせは、令和3年10月1日（金）までに必要事項を記入のうえ、郵送（84円分の切手を貼った返信用封筒を同封）により本学入試課入試グループに提出すること（照会は任意）。

結果についての通知を、令和3年10月8日（金）までに文書で本人あてに発送する。

※ 「13.その他の注意事項」の（4）（14ページ）参照

（記入上の注意）

体育・スポーツ活動に関する具体的な業績（全国規模の大会やブロック大会での成績等）のうち、最も優れたものを記入すること。